

●シリーズ●わが町の文化財へ61

世羅町重要文化財 三仏寺版木

平成4年1月16日指定

この版木は、木製で、縦26.8 cm、横34 cm、厚さ2.5 cm。裏面に「永祿四年（一五六一）霜月吉日」との陰刻があるものです。向かって右側に牛玉宝印、向かって左側に三仏寺と浮き彫りにしてあります。魔除けや五穀豊穰などを願う住民の信仰を知るうえで貴重な資料といえます。

この「牛玉宝印」銘のある版木の存在により、中世熊野三山の御師先達（山伏）が盛んに作成頒布したと同様の事が、三仏寺でも行われていたことを証明するもので、民俗学的にも重要な資料といえます。

【版木とは】

文字（経典）や絵などを彫り刻んだ木の板で、日本では彫りやすく堅く伸縮度の少ない山桜の板材がよく使われている。絵画などの細密彫りにはツゲも用いられる。

【三仏寺について】

文政3年（一八二〇）の「黒瀨村国郡志御用下弾書出し帳」によると、本尊薬師如来坐像、脇立に十二神将とあり、元は耆間半四面の御堂で、元龜3年（一五七二）の棟札があると記されている。



●シリーズ●わが町の文化財へ62

世羅町重要文化財 木造弘法大師坐像

昭和59年5月15日指定

真言宗の開祖弘法大師空海の像で今高野山安楽院（建物は県重文）に伝来したものです。

右手に五鈷杵を持ち、椅子に正座する坐像で、胎内に墨書銘があります。現在のところ読み取れていません。

像高は57.5cm、木造玉眼彩色（下地漆塗）、寄木造。形式から見て鎌倉時代から室町時代にかけての作と推定されています。なお、椅子は後世に補われたものとされています。

